

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(令和元年7月31日(水) 09:13～09:17 於) 福島市)

1. 発言要旨

ただいま、福島県を訪問している各国大使館の皆さんとともに、まるせい果樹園の旬のみずみずしい桃をおいしくいただきました。

復興庁は、福島の復興の現状等を知ってもらう、福島県産品を食べってもらう、福島に来てもらう、この3つの観点から、効果的な情報発信に取り組んでおります。

今後とも、福島県産食品のおいしさや安全が確保されていることについて、効果的に発信し、国内外の風評の払拭に全力で努めてまいりたいと思います。

2. 質疑応答

(問) 今ほど、効果的な情報発信を今後もというお話がありましたけれども、先ほど自民党の8次提言で、復興庁の後継組織は、今とほぼ同じ体制のまま当面継続するというような自民の提言がありました。

それを受けて、現体制で維持する上での財源ですとか、今後の組織についての見直しをお聞かせいただけるのでしょうか。

(答) 今の御質問ですけれども、8次提言の具体的な内容について、まだ私の手元にありません。

自民党としての決定はあるのかもしれませんが、来週だと思えますが、総理のほうに提言書をお渡しするというふうにお伺いしております。その後において、私のほうでコメントをさせていただきたいと思います。

いずれにしましても、ことしの3月に基本方針の見直しをしました。その見直しに基づいて、さまざまのところから、例えば各県の知事から、さらには市町村長から、並びにJAや漁協の皆様方、そのほかの団体の皆様方からさまざまな要望を今、いただいているところであります。

それをしっかりと検討させていただいて、年内にその方向性を示していきたい。財源についても、大まかな方向性を示していきたい。そういう状況であります。

(問) 今回のプロジェクトの名前は、「復興五輪」海外発信プロジェクトということで、2020年、来年の五輪を見据えていると思います。復興・創生期間後も見据えた情報発信というのは非常に重要かと思うのですけれども、大臣としての今のお考え、復興・創生期間後も見据えた情報発信の大切さを改めてお聞かせください。

(答) 福島の問題については、やはりこれから長期にも要することだというふうに思います。特に、復興をなし遂げるためには、今まで帰還されていないところ、例えば大熊町や双葉町、こういったところは、まさにこれから本格的に帰還が始まる状況であります。

したがって、この状況は、まずしっかりと環境整備をしていかなければならないというふうに思いますし、この問題については、国内外についても、やはりしっかりと発信をしていくことが大事です。

それは、福島の安全性にも極めて大事な要素だと思っております。福島は安全、安心だということを、やはりずっと言い続けていく、発信していく。これが復興・創生期間後においても必要であろうというふうに感じております。

(以 上)